

丸亀市

持続可能な観光地域づくりに向けた取り組み





目次

Index

01 持続可能な観光とは

02 丸亀市の歩み
2025世界TOP100『世界2位』と今後の展望

03 地域全体の認証制度シルバー・アワード

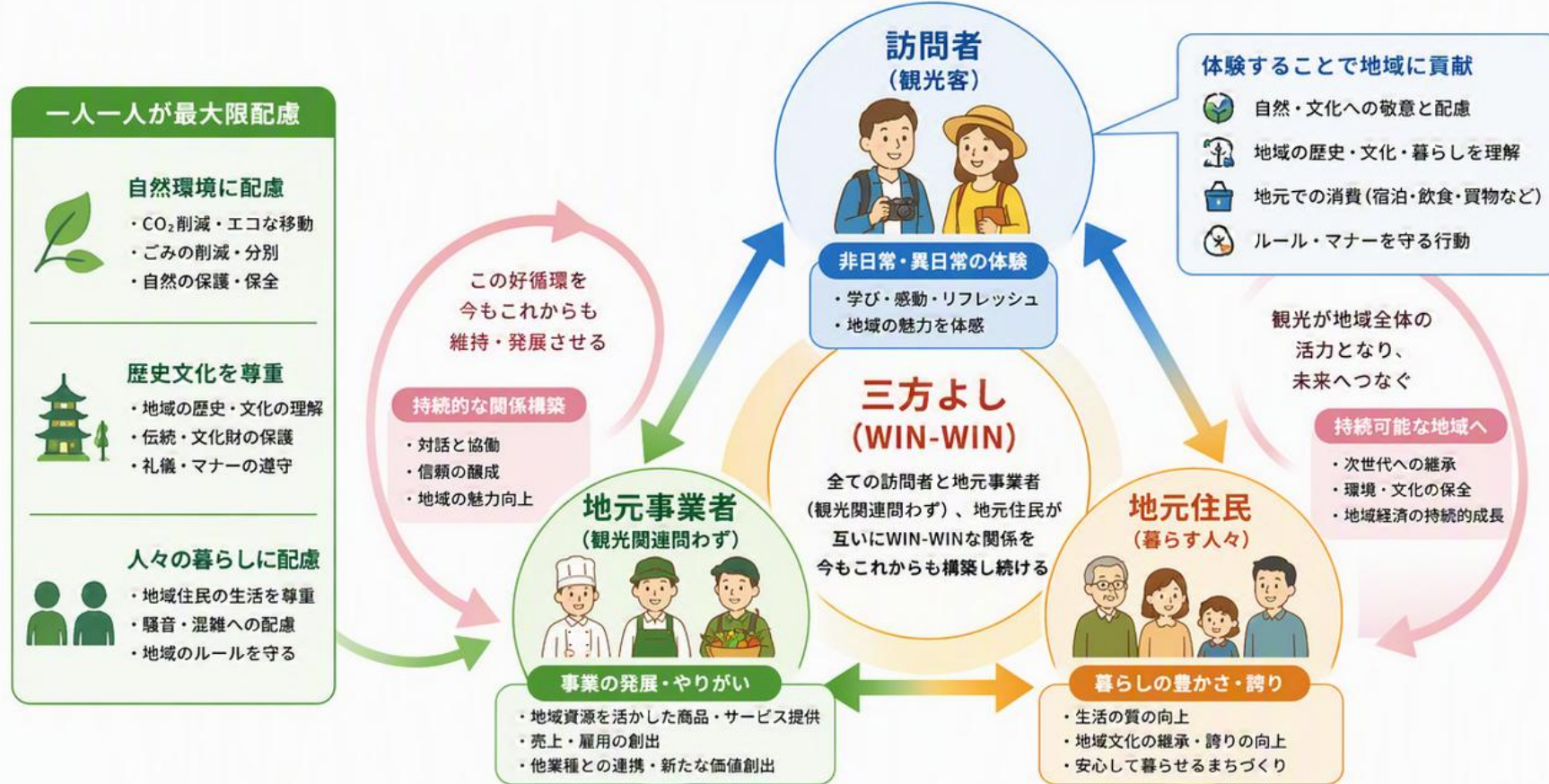
01 持続可能な観光とは

【定義】

来訪者、産業、環境、受け入れる地域のニーズに適合しつつ、現在と将来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光のあり方。（UNWTO 国連世界観光機関）

観光で築く「三方よし」の持続的な好循環

～今もこれからも、互いにWIN-WINの関係を構築し続ける～



一人一人の思いやりと行動が、未来の地域をつくる原動力に。

01 持続可能な観光とは

GSTC(Global Sustainable Tourism Council)



Global Sustainable Tourism Council

●GSTCとは

⇒Global Sustainable Tourism Council (グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会) は、2007年に設立された世界的な旅行および観光分野において、持続可能な観光の国際基準を作成し、推進していくための国際非営利組織です。

【4つの柱】

- ・持続可能なマネジメント
- ・社会経済サステナビリティ
- ・文化的サステナビリティ
- ・環境のサステナビリティ

JSTS-D(Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations)



●JSTS-Dとは

⇒ Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations (日本版持続可能な観光ガイドライン) は、DMO等が持続可能な観光地マネジメントを行うことができるようにGSTC基準を準拠して、観光庁が作成したものです。

01 グリーン・デスティネーションズとは



グリーン・デスティネーションズについて



非営利組織

2014年創設



国際機構

本部:オランダ



事業概要

観光地および事業者向けの研修、支援、評価に関するサービス、認証プログラムの提供



GSTC(グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会)による承認・認定

- 2016年グリーン・デスティネーションズスタンダードがGSTCより承認される
- 2018年グリーン・デスティネーションズの認証がGSTCより認定を受ける

01 世界TOP100ストーリーとは

グリーン・デスティネーションズTOP100ストーリーズ ?

※グリーン・デスティネーションズとは、GSTCが認定した、サステナブル・ツーリズムを推進、評価する国際認証団体。

2014年から毎年開催されており、心に残るサステナブル・ツーリズムの事例として100の観光地や事業者を選出し、世界各地の観光地、ツアーオペレーター、旅行者にPRを行っている。

このコンペティションでは、公募により「100のサステナブル・ツーリズムのストーリー」が選出され、そのストーリーの有効性、革新性、他の地域における再現性といった観点から審査される。

TOP100の中で最も優れたストーリーは、ベルリンで毎年開催されるITBベルリン内の「グリーン・デスティネーションズ・ストーリー・アワード」にノミネートされ、各部門の1～3位が発表される。

01 TOP100の審査: 1STEP、2STEP

- ・プロモーション
- ・地域のブランド化

各地の優良事例を6つのカテゴリから選択して提出

観光地管理、自然と景観、環境と気候、文化と伝統
地域社会の活性化、**ビジネスとマーケティング**

グリーン・デスティネーションズの
評価員によってレビューされる

【申請対象】

1年目: 15/84項目 ▶ 2年目: 30/84項目



STEP
01

STEP1クリア

STEP
02



※STEP2のストーリー審査へ進むには、60%以上のクリア率が必要

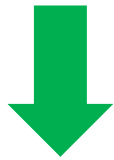
※申請者はSTEP1の結果を踏まえて、地域での持続可能性を向上させるための施策を検討したり、他部署などに関係各所へ効果的に周知できる

01 持続可能な観光に取り組む理由

取り組むべき理由：

『人口減少』や『少子高齢化』による地域課題を『外からの消費＝観光客誘致』で補う！！

- 人口減少（特に生産年齢人口の減少） ⇒ 税収の減少で自治体として成り立たなくなる
- 少子高齢化 ⇒ 後継者不足で伝統行事などが続かない、賑わいや地域経済の衰退
- 定住人口1人減少 ⇒ 地域消費額は約145万円の減少



【対応策に観光を活用】 引用：観光庁（2025年時点）

人口減少による地域消費額減額に相当する誘客を目指すことが必要！

- ・外国人旅行者 約6名分×約22.9万円
- ・国内旅行者 宿泊 約20名分×約7.2万円
- ・国内旅行者 日帰り 約73名分×約2.0万円

01 持続可能な観光の指標

地域経済循環分析

2022年
指定地域:香川県丸亀市

地域経済循環率

74.0%

所得への分配
3,247

分配(所得)



詳細を見る

所得からの支出
4,390

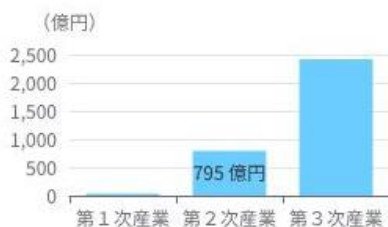
支出



詳細を見る

支出による
生産への還流
3,247

生産(付加価値額)



詳細を見る

◆丸亀市の地域経済循環率

2018年	78.2%
2020年	76.0%
2022年	74.0%

◆高松市の地域経済循環率

2018年	102.6%
2020年	102.2%
2022年	105.2%

【地域経済循環率】 引用：RESAS

地域内でどれだけ所得が生産され、それが域内にどれくらい留まっているかを示す地域経済の自立度を表す指標。

・ 100%未満：

外からの消費や所得に依存している傾向

・ 100%以上：

地域の稼ぐ力が高い一方で、利益が域外へ流出している可能性はある

02 丸亀市の歩み

2022年

- ・観光庁「持続可能な観光地経営モデル地区事業」に採択されたことを契機にWGを設立
- ▶ 地域の歴史や地理的特性、観光資源の現状を多角的に分析し、課題を抽出、解決策を模索
- ・市主催でGSTS国際トレーニング3日間を開催（コーディネーター役の創出）



2023年

- ・ 立命館大学(食マネジメント学部)と産官学連携事業として、模索した解決策をモニタリング
- ・ **GD2023年版TOP100に『丸亀うちわ』の伝統継承の取り組みなどが評価され、選出**
- ▶ 国内外からの視察やうちわ作り体験の誘致、職人の意識の向上に寄与
- ・観光庁策定のJSTS-Dロゴマーク獲得



02 丸亀市の歩み

2024年

- ・ 実現可能性の高いものから官民で連携し、磨き上げを行う
- ▶ 2つの循環型の取り組みが形になる
- ・ これまでの取り組みスキームをまるっと教育旅行向け探究学習プログラムへ商品化
- ・ 国内外からの視察や講演、教育旅行案件の創出に寄与

2025年

- ・ 磨き上げを行ったコンテンツのPRと販路拡大、教育プログラムのセールス強化
- ・ GD2025年版TOP100に『循環型経済』の取り組みなどが評価され、2度目の選出
- ▶ 地域内外の教育素材への展開に拍車がかかる

2026年

- ・ ビジネス＆マーケティング部門で世界2位を受賞
- ・ 地域全体の認証制度ではシルバー・アワードを獲得

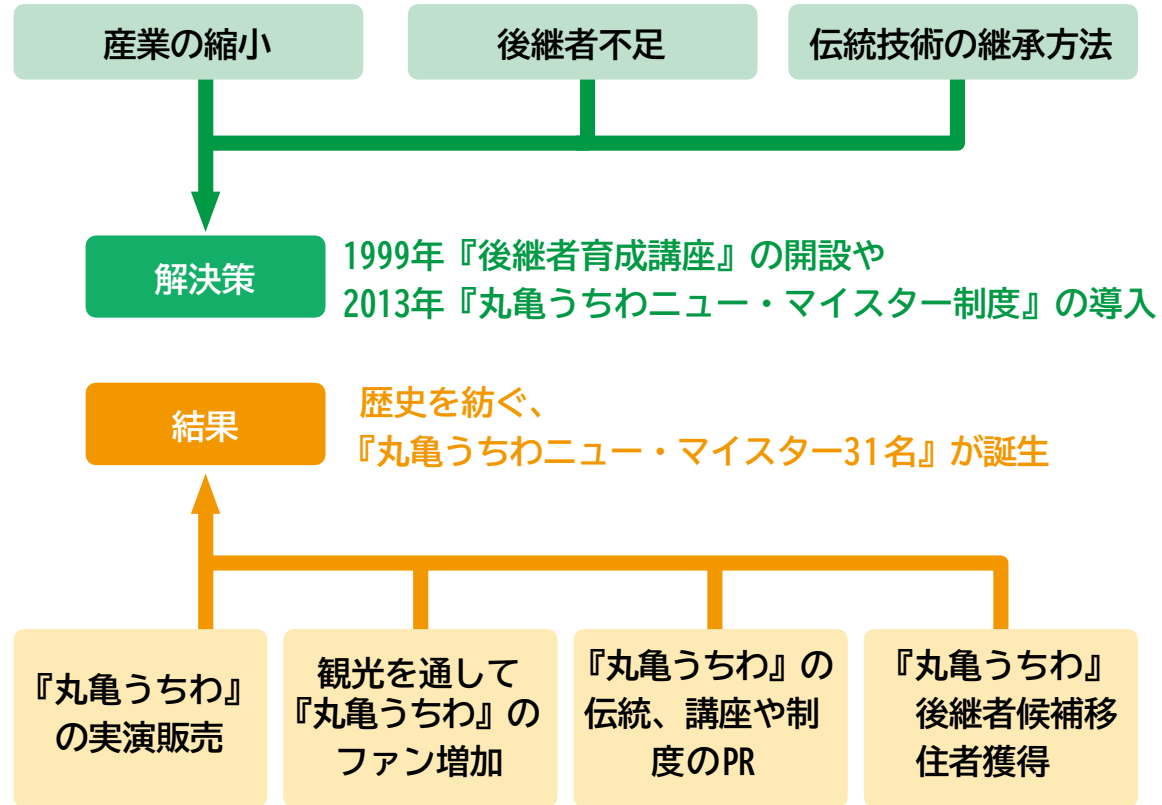




2023年、2025年に選出された
世界TOP100ストーリーとは

02 丸亀市の歩み：2023TOP100初選出ストーリー 『歴史を紡ぐ、丸亀うちわニューマイスター31』

丸亀うちわの歴史が途絶えかける危機的状況



観光における『丸亀うちわ』が交流人口の増加、
伝統文化の継承、地域振興などに大いに寄与している。



●オリーブうちわ：うちわの持ち手に処分する予定だったオリーブの枝木を使い、オリーブの葉を煮出して染めた和紙が貼ってあります。

●渋うちわ（別名：漁網うちわ）：海洋ごみの約40%と言われる漁網をリユースし、うちわに編み込み、柿渋で染めた和紙を貼ることで硬く破れないうちわを作り出します。

●しおりうちわ：うちわを製作した際に出る、竹や和紙の端材を活用することで、可愛い形に変身させます。

02 2025再選出されたTOP100ストーリー内容(概要)

3つの評価ポイント

- ✓ 『循環型経済』(サーキュラー・エコノミー)
- ✓ 『産官学連携』(民間事業者・行政・次世代の学生)
- ✓ 『ビジネスと教育への意識』(教育コンテンツへの展開)

02 ストーリー内容(概要)

課題

- ❗ 観光関連事業者間の横断的なネットワークの不十分さ

サステナブル・ツーリズムへの共感、認知度の低さ

- ❗ 地域資源の活用や価値創出

将来世代に向けた地域資源の継承に対する理解度の低さ、課題解決とビジネス性の両立



対策

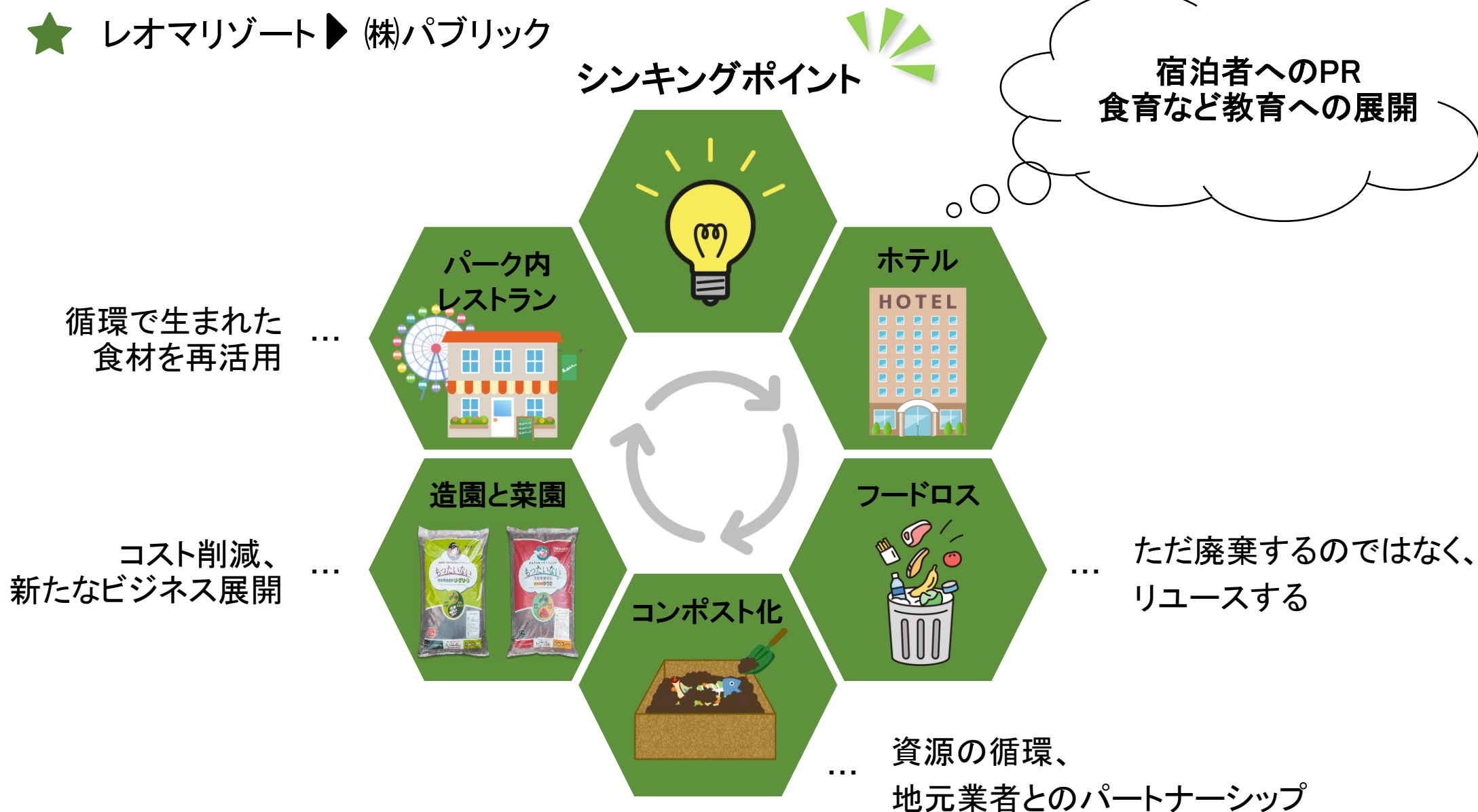
- ✔ 「循環型経済(サーキュラーエコノミー)」の可視化と実装

地域の資源循環の潜在力を明確にするために循環図を作成し、課題の構造的理解と共有を行い、新たな地域ビジネス創出の可能性を明確化(産官学連携事業)

- 1 課題構造の可視化とシンキングポイント(思考の着眼点)の設定
- 2 産官学連携でのFWと多面的な解決策の検討
- 3 教育旅行向けプログラムと地元教育への展開

02 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ レオマリゾート▶ (株)パブリック



02 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ レオマリゾート ▶ (株)パブリック

【レオマリゾートにおける現状】

- ・レオマリゾートとして「脱炭素」や「食品ロス」など、環境に配慮した具体的な施策ができていなかった。

レオマリゾートのSDGS取り組み(案)



日々捨てられるバイキング料理の廃棄食材を堆肥化し、バラ園 エディブルガーデン、園内の植栽に利用する。エディブルガーデンで採れた野菜は園内のレストランで提供。

レオマの森 レオマワールド

排出事業者

食品廃棄物

収集

食品廃棄物
リサイクル
システム

肥料

肥料原料

野菜



ホテルレオマの森 生ごみ廃棄量年間68.2t

内食品リサイクル対象物22.8t～33.6t

平均28.2t28.2tの生ごみから生産される堆肥は約20%

28.2t × 0.2 = 5.64t を目標とする！

5.64tのCO²削減量は
3,119kg

食品リサイクル分別について

食品リサイクル

調理くず調理加工品食
べ残り物茶
葉
コーヒーかす



リサイクル対象外

卵の殻、貝殻、魚のあら・骨、カニ・エビの殻、大量に調味料がかかった物
パン・うどん等麺類、スープ等液体、梅干し、トウモロコシの芯、パイナップルのへた
ビン・カン等容器入りの物、割り箸・串・ようじ



※リサイクル対象外の物が混載時、可燃物扱いとなりますのでご注意ください。

02 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ 子どもたちの学習素材への活用や教育系テレビ番組でも放送

こども記者が制作・インタビュー

まるがめ こども新聞

NEWレオマワールドの社長さんにインタビューしたよ！

2026
vol. 2



Topics

丸亀市が世界の持続可能な観光地TOP100で世界2位に選出されたその取り組みとは？

1日に出るゴミの量におどろき！



大根発見！



Q.5 何種類くらいの野菜を育てているの？

リサイクル肥料を使った植物は、野菜だけじゃないんですよ。花にも使っています。食べられる植物は「エディブルガーデン」っていうところで、50種類～60種類育てています。

Q.6 社長さんは育てた野菜を食べたことがありますか？

もちろんです！ズッキーニを食べました。生で食べました。おいしかったです。

Q.7 ゴミのリサイクルから作られた肥料は、通常の肥料と何か違うところはありますか？

リサイクル肥料は、成長のスピードが早く、大きく育つようになったみたいです。



バックヤードでは、チューリップの苗をたくさん育てていたよ



レオマワールドでは、山を切り崩してつくった場所ということにびっくりした！

Q.4 溜まったゴミはいろいろあるのに、誰がどうやって分別しているの？

ホテルの裏のレストランで料理を作っている料理人の方が、使えないものと肥料になるものをその場で分けています。肥料になるものは、袋に赤いテープ、肥料にできない食品はそのままにしているんです。

肥料にできるもの	肥料にできないもの
調理前の野菜 調理する前のお肉 食べ残し物(調味料がかかっていないもの) 茶葉・コーヒーかす	調理後の調味料がかかった料理 魚の骨・貝殻 糖類 割り箸・串・ようじ など



カビバロも大喜び！

実は・・・

レオマにあるカビバロにも、キャベツなどホテルで使った野菜をあげているんです。

丸亀市に住んでる人が、みんなですね、すごい量の肥料ができるから1番いいよね。



MEMO

インタビューしたお部屋から、飯野山が見えたよ！



年間60万円のリサイクル肥料を買っているんだそう！

パーク内のレストランで提供しているメニューには、オリエンタルトリップ内にある「エディブルガーデン」で育てた野菜も使っているよ



02 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ 中津万象園 ▶ まるく農園

【課題】

松の処分に
コストがかかる



【解決策】

剪定した松を
まるく農園へ提供



【事例】

レモン栽培の
グランドカバーで活用



SDGs的視点からどうコンテンツ化して
ビジネス展開するのか！？

02 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ 中津万象園 ▶ まるく農園

中津万象園の剪定の際に**大量に出る松の葉**は、三豊市仁尾町にある**レモン農園**で、**防草と直射日光を防ぐためのグランドカバーとして活用**されています。中津万象園では、その**レモン畑で採れた果実を使い**、レモネード専門店『TANGIERS CAFE／タンジールカフェ(丸亀市)』で作られた**レモネードをお出ししています**。

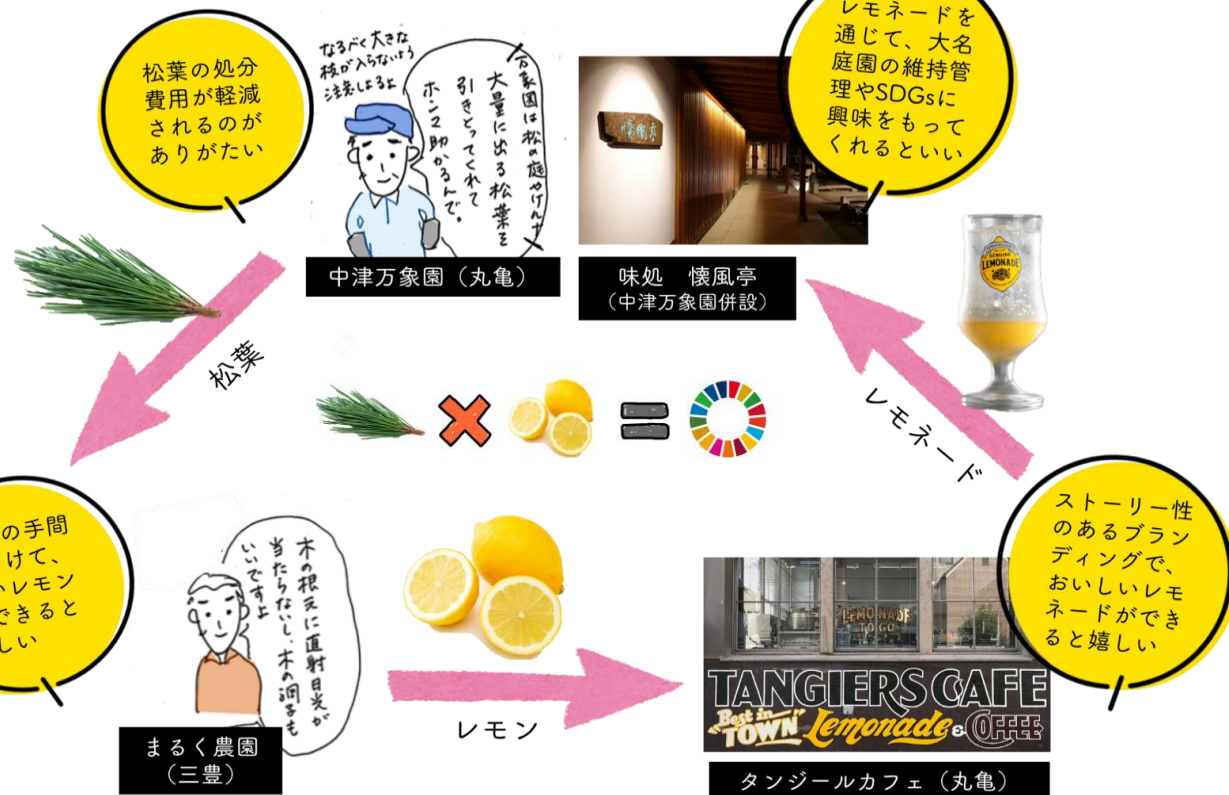


落葉樹の葉を使うと土壌が中性に、常緑樹だと酸性に傾くと言われています(植物は弱酸性を好むものが多い)。まるく農園では、酸性に傾きすぎないように気をつけながら、松葉を寝かせて利用しています。



レモネードを使用したプラン一例

- ① 華籠膳
 - ② レモネードと緑茶をブレンドしたオリジナル食前酒(ノンアルコール)
 - ③ 入園料
- 全て込みで 税込3,410円



02 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

— 松葉リユースからレモネードへ —



まるく農園のレモンは、市内の「タンジール・カフェ」でレモネードに加工・販売。
松葉をイメージした限定パッケージは、万博会場での販売や試飲会でも好評。
中津万象園併設の「懐風亭」では食前酒のような形や文化財の保安全管理への寄付付き商品として提供。

— 地元教育への展開 —



レモネードが完成するまでのストーリーを
地元の学生や事業者へ伝え、生徒が主体的に考えながら、地域の魅力を発信する取り組みを校内で実施することに成功。
→生徒自ら思考・デザインし、老舗和菓子屋「寶月堂」とのコラボ作品を商品化。
『若者の和菓子離れ』という課題に着目。

02 地域課題を地域内外の学生と産官連携で解決する教育向けプログラム造成

探究学習プログラム『旅マエ・旅ナカ・旅アト』ワークブックも作成

A コース

SDGs探究コース(半日)

訪問場所: 丸亀市/丸亀城/丸亀うちわミュージアム

丸亀市は「世界の持続可能な観光地TOP100」に選ばれ、伝統文化継承と環境保護を両立する持続可能な観光資源である丸亀うちわが注目されています



B コース

ローカルビジネス探究コース(半日)

訪問場所: 丸亀市内商店街/御菓子司 寶月堂

(株) OIKAZE/中津万象園 (株) 富士建設

丸亀エリアで活躍する方々のお話を聞いたり、施設訪問しながら地域の産業の現状と課題を探ります。



C コース

こんぴらさんと商店街探究コース(半日)

訪問場所: 太助灯籠/池商店/こんぴらさん

五人百姓 池商店は、観光地「こんぴらさん」にある老舗の飴屋です。金刀比羅宮の境内では、「五人百姓」として名物の「加美代飴」を販売しています。丸亀とこんぴらさんの歴史的なつながりをひもときながら、表参道商店街の活性化と課題について探ります。



02 ストーリーの評価

— フィードバック —

Story title

The Classroom Is the City. Educating for Circular Tourism across Generations

Category

Business & Marketing

EVALUATOR COMMENT

"An outstanding example of co-creation and social inclusion, this initiative not only revitalizes local identity through sustainable tourism and circular economy practices, but also empowers the next generation by integrating education, community engagement, and environmental stewardship into a replicable model for regional innovation."

— 和 訳 —

ストーリータイトル

街が教室になる
一次世代に繋ぐ、学びから始まる循環型観光—

カテゴリー

ビジネス & マーケティング

評価委員会のコメント

共創と社会的包摂の優れた例であるこの取り組みは、持続可能な観光と循環型経済の実践を通じて地域のアイデンティティを活性化するだけでなく、教育、地域社会の関与、環境管理を地域イノベーションのための再現可能なモデルに統合することで、次世代のエンパワーメントにも貢献します。

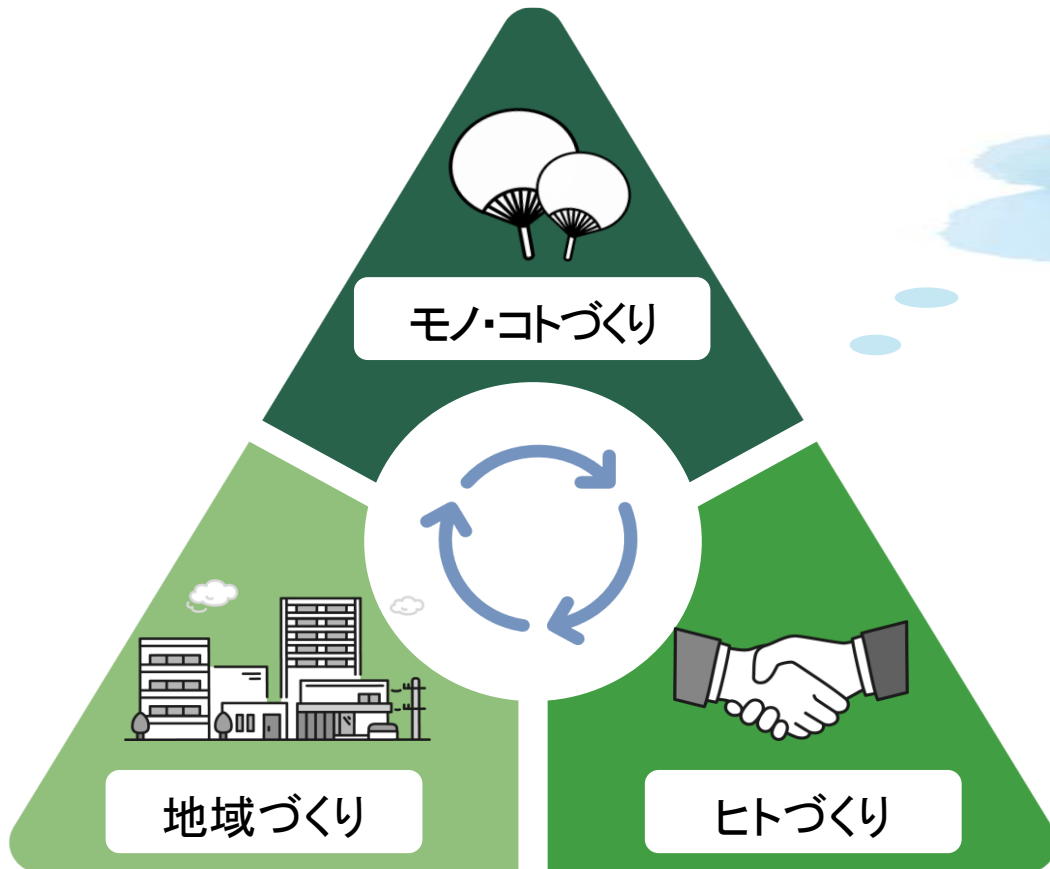
02 ITBベルリン2026での授賞式の様子

★ ITBベルリンとは、毎年3月にドイツで開催される世界最大の観光博覧会



02 今後の展望 —TOP100—

持続可能な観光地域づくりには
「モノ・コトづくり → ヒトづくり → 地域づくり」を
地域全体で意識的に取り組み続けることが重要



モノ・コトづくりには、必ず人が集まり、人づくり(人間関係構築)が生まれ、やがて地域として歯車が動き出す！

この歯車を回し続けるために、単なるモノづくりだけでなく、1つのモノ・コトが生まれ、持続していくには「どんな立場の人がどのように関わっていくのか」、コミュニティーの構築と継続を深く考える必要があると感じる。

プレーヤーの確保やシビックプライドの醸成を意識しつつ、「教育的価値・ブランド化・共創」の循環を観光軸で考えていく。



GREEN
● DESTINATIONS

03 アワードについて

2026

SILVER AWARD

03 アワードの概要

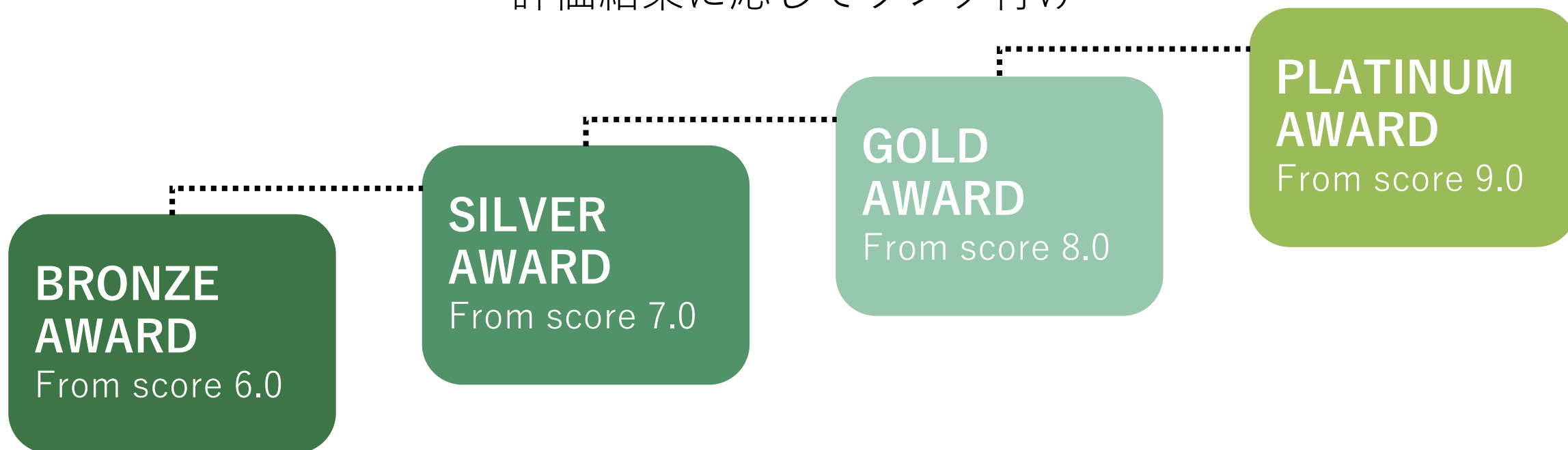
Green Destinations Awards

観光地の持続可能性を国際基準に基づいて評価・認証する制度

指標・エビデンスに基づく審査＋第三者監査



評価結果に応じてランク付け



03 アワードの概要

6セクション
全84項目

本市が審査を受けたGD基準

SECTION 1: 観光地管理

観光地の責任体制や計画、来訪者管理、モニタリングなど、持続可能な観光を推進するための基盤を評価

- 責任と組織
- 計画と開発
- 来訪者管理
- モニタリングと報告
- 法令と倫理の遵守

SECTION 2: 自然と景観

自然環境の保護や、観光が野生生物、景観に与える影響の管理を評価

- 自然と保全
- 自然と動物体験

SECTION 3: 環境と気候

汚染対策、資源管理、気候変動への対応など、環境負荷の低減を評価

- 土地利用と汚染
- 水の管理
- 廃棄物処理とリサイクル
- エネルギー、持続可能なモビリティと気候変動
- 気候変動への適応

SECTION 4: 文化と伝統

有形・無形の文化遺産の保護と、その真正性の維持を評価

- 文化遺産
- 人と伝統

SECTION 5: 社会福祉

住民の権利、地域社会の参加、健康、安全、地域経済への貢献を評価

- 人権の尊重
- コミュニティの参加
- 地域経済
- 社会経済の影響
- 健康と安全

SECTION 6: ビジネスと コミュニケーション

観光事業者への支援、情報提供、正確なマーケティングを評価

- ビジネス部門の参画
- 情報とマーケティング

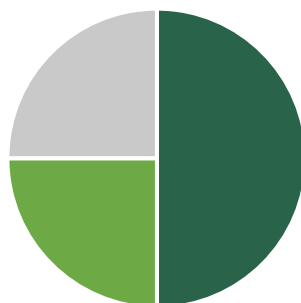
03 各指標と評価

指標と評価

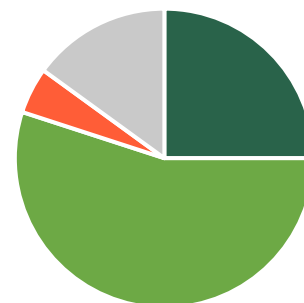
1.観光地マネジメント



2.自然と景観



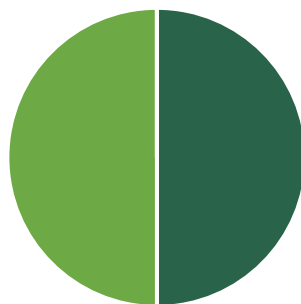
3.環境と気候



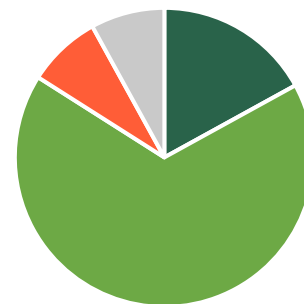
4.文化と伝統



5.社会福祉



6.事業者との連携



● 完全準拠

● 一部準拠

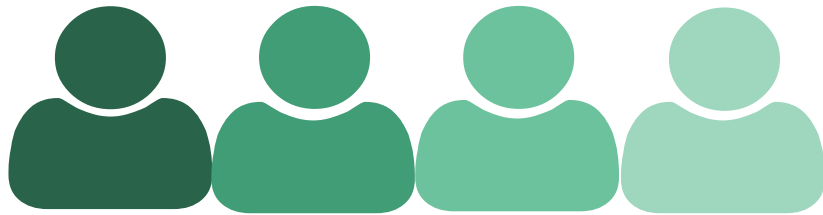
● 準拠しない

● 該当なし

09 評価された取り組み

1.観光地マネジメント

行政



計6名のサステナビリティコーディネーター

- 持続可能な観光施策の計画
- STARsによる自己評価と公表
- 関係部署との調整
- 観光地での環境・社会・経済指標の
モニタリングと報告
- 観光協会・地元企業・外部団体との
連携調整

一般財団法人 丸亀市観光協会 (DMO)



- 観光事業者との連携
- ガイドラインの普及
- イベントや観光地での環境配慮
- 訪問者のマナー意識向上の推進
- 観光動向調査の実施・分析

09 評価された取り組み

2.自然と景観

- ・ 外来種対策および在来生物の保全
- ・ 土器川生物公園におけるホタルの繁殖環境の整備
- ・ 海洋生物の生息環境の保全



- ・ EV充電設備の拡充
- ・ ボートレースまるがめにおける
騒音対策としての防音壁の設置
- ・ レンタサイクルの利用促進および
ウォーキングツアーの実施

3.環境と気候

09 評価された取り組み

4.文化と伝統

- ・ 無形文化財の継承
- ・ 丸亀市文化財保護審議会の開催・運営



- ・ DMO懇談会の開催
- ・ 市民交流活動センター マルタスにおける
地域イベントの実施

5.社会福祉

09 評価された取り組み

6.事業者との連携

- ・観光関連事業者で構成するワーキンググループの設立および会議の開催
- ・事業者向け講演会およびワークショップの実施



03 課題に対する取り組み

観光KPIの策定

TIA^{※1}を活用したモニタリング
調査項目の見直し

01

モニタリング
の不足

02

事業者連携
の不足

事業者のサステナ経営促進

認証制度導入の支援

実践型コミュニティの形成

サステナビリティ・チーム体制の構築

職務の標準化と承継体制

全庁的な研修による能力向上

03

属人化による
継承不足

04

共通ビジョン
の欠如

マネジメント構造の改革

スチュワードシップ評議会^{※2}の設立

統合的な方針策定

※1…観光が地域にもたらすポジティブ・ネガティブな影響を可視化したシート

※2…持続可能な観光地の実現に向けて、地域資源を責任をもって守り活用するための協議体

03 課題に対する取り組み ～その他の多岐に渡る、詳細項目（一部）～

テーマ1: 目的地管理と組織体制 (Destination Management)

項目番号	項目名	項目が示す内容や基準	指摘コメント(丸亀の現状)	改善に向けた動き&具体例(※他自治体参考例・対応方含む)
1.1	サステイナビリティ・コーディネーター	調整担当者の任命、責任と権限の割り当て。職務内容説明書(15名以上は正式な職務記述書)の有無。	DMOと行政のキーマンと役割分担は理解。次回は取り組みの詳細を確認。	【役割の明確化と具体化】 それぞれの役割を明確化し、取り組みを具体化する。 ※参考: 担当者の「職務記述書(ジョブディスクリプション)」に持続可能観光の推進責任を明記し文書化する。
1.2	管理組織	十分な資金を持つ管理組織(DMO等)の有無、関係機関(環境・文化局等)との強固な連携、持続可能な調達方針。	現行の計画では持続可能な観光に関する記載は十分ではない。	【マネジメント体制の構築】 持続可能な観光に関する内部方針を定め、適切なマネジメント体制を構築し、次回審査で提示する。
1.3	コーディネーター及びチームの研修	チームの十分な人員配置、持続可能性に関する研修・経験(証明書や経歴)の文書化。	コーディネーター役の人数は最低限で1人の負荷が大きい。GSTC等の研修は民間事業者向けの内容。	【チームベースへの移行】 単独担当から、より広範な「チームベース」の管理体制へと移行させ、組織として効果的に機能させる。

03 今後の展開－アワード－

行政の介入がなくても、持続可能な行動が自然に選択される観光地へ

自走する持続可能な観光へ

- ・課題を一つずつ解決し、
運営基盤を強化
- ・地域内で持続可能な取組が循環する
仕組みの構築

STEP
03

次のステップに向けた改善

- ・モニタリング体制のさらなる強化
- ・民間事業者との連携の深化
- ・属人化を防ぐ持続可能な運営体制の構築
- ・地域全体で共有できるビジョンの明確化

STEP
02

《現状》

基盤の整備と評価

STEP
01

ご清聴ありがとうございました。

Thank you for your attention.